



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 5 月 21 日(水)

発行 館長 加藤 智 一

ゆでガエル現象

夜遅く帰宅した私。風呂にでも入ろうかと浴室に向かいスッポンポンで気が付きました。浴槽に溜まったお湯の何と温いこと。ギリ耐えられない訳でもなかったのですが、そのまま入浴。追い炊きスイッチ ON。ジワジワとお湯の温度は上昇して行くのですが、だんだん眠たくなってきた。どの程度時間が経ったのか、おそらく大した時間ではなかったと思いますが、ガクンと項垂れたその時、こんな寓話を思い出しました。「ゆでガエル現象」。カエルは、急に熱湯に入れられると逃げ出しますが、常温の水に入れて徐々に温度を上げると逃げ出すタイミングを失い、最終的に死んでしまうという話。「そんな馬鹿な」と思うでしょ。私は人間なのでそうなる前に危険を回避できましたが、実際のところどうなのか？どこのどなたか知りませんが、実際に実験された方がいたそうで、ゆっくり水温を上げたところで、カエルは死ぬ前に水から出ていったそうです。そりゃそうでしょう「ゆでガエル現象」なるものは、科学的には誤りなのです。が!! 危機に対処しない行為を警告するという意味でビジネス的にはよく使われる寓話です。

目の前の危機を後回しにした結果、いつの間にか手遅れになってしまうぞという戒め。主にビジネスシーンでの環境変化への対応の重要性を示すために用いられています。

「ゆでガエル現象」が日本で知られるようになったのは、アメリカの精神医学者グレゴリー・ベイトソンの「ゆでガエル寓話」によります。経営学者の桑田耕太郎と社会心理学者の田尾雅夫による 98 年の共著『組織論』の中でベイトソンの「ゆでガエル寓話」が紹介され、世に広まりました。それではなぜ「ゆでガエル現象」がビジネスで説得力を持つのでしょうか？ビジネスシーンに限らず、人間は変わりたくない生き物らしく、変化を恐れ、できることなら現状のままで良いと思うことで心の安寧を保とうとします。この心理状態を行動経済学では「現状維持バイアス」と説明しておりまして、例えば、古くなった洗濯機を買おうか悩んでいる人がいるとします。店に行くと最新式のドラム式洗濯機がありました。ドラム式洗濯機は家事にかかる時間が短縮されることは分かっていたものの、新しい洗濯機に変えることにリスクを感じて、既存の洗濯機のリニュー

アル版を買ってしまった。なんてのは、「現状維持バイアス」が働いているゆえんです。

危機が眼前に迫っていても、その危機がゆっくりとしたものだと、人は簡単に対応できないものです。今すぐ対処しないと大問題になると分かっている変化に対しては、是が非でも何とかしようと思うのですが、緩い変化には、人は対応できないらしい。緩い変化といっても危機であることに変わりないのに。

「前職のやり方を踏襲すれば失敗しないはず。」というような、過去のやり方から抜け出すことができない思考も、「ゆでガエル現象」と言えるでしょう。時代は変わる、取り巻く状況も変化しています。過去のやり方が通用しなければやり方を変更しなければならぬのに、変更できずに失敗するのです。

そしてさらに厄介なことに、人は難しい課題を後回しにしてしまう傾向があります。その理由は、難しい課題を解決するには自分だけでは解決できないから。様々な情報ツール、人脈、経験、資金を駆使しないと解決できません。それが面倒くさいので、「後でいいや」となる訳だ。そしてそれがいつの間にか手遅れの「ゆでガエル」。耳が痛い。



而今 (ジコン)

三重県にある木屋酒造が造る清酒「而今」。

ネット通販では一升瓶で 2~3 万円 (十四代よりは若干安め) する高級酒ですが、このネーミングどこから来たのかと調べてみれば、案の定、仏教用語でした。「過去を振り返らず、未来を恐れず、今だけに集中 (今この瞬間を大切に)」という曹洞宗の開祖「道元」による禅の教え。なぜ日本酒の名前になったのかは知りませんが、もしかしたら作り手の戒めなのか？